

Bouquet

ブーケ

contents

特集 地域に「出番」と「居場所」をもつには
 —^{オトコ}男性の場合.....2p
 区民にインタビュー.....5p
 Bouquet Information 講座・イベントの報告とお知らせ.....6p
 TOPICS 中央区男女共同参画 リーダー研修 in 佐原.....8p
 女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか?.....8p



「2013年子どもとためす環境まつり」で
 実行委員長として挨拶



中央区環境保全ネットワークの
 皆さんとイベントブースにて



子どもたちも元気よく参加



中央区ブーケ祭りで活動報告



傾聴ボランティアとして
 お年寄りにお話を聞く



No. 72
 2013.12

本誌5p「区民にインタビュー」より
 地域活動に取り組む様子



地域に「出番」と「居場所」を もつには——^{オトコ}男性の場合

最も身近な暮らしの場は地域ですが、地域活動に参加する男性はまだ少ないのが現状です。現役で働いている人も定年を迎えた人も、男性が身近な地域に関心をもち、地域に一番と居場所をもつことは、個人の生活を豊かにするばかりでなく、地域の活力も高まります。

特集では、男性の地域活動をテーマに、地域と関わるごとの大切さや関わり方について、株式会社ニッセイ基礎研究所主任研究員の土堤内昭雄さんにお話を伺うとともに、地域活動に取り組んでいる区民の方にもインタビューをしました。

子どもがいる人は、学校をきっかけに地域活動へ

私自身の経験談からお話ししますと、私は子どもが中学生のときPTAの会長を2年間務めました。42人の役員のうち父親は二人だけでした。役職を決める1回目の会合が平日の夜にあり、遅れていったところ、会長職しか残っていませんでした。

サラリーマンですので平日に頻りに学校に行くことはできませんが、学校とのやりとりをメールでできるのなら自分でも会長が務まると思い、お引き受けることにしました。学校に行くのは、月に

1回の役員会のみで済みましたので、順調に始まりました。

会長をしている2年間にいろいろなイベントをしました。保護者を対象にしたパソコンの講習会で、講師を保護者にお願したところ、十数人のお父さんたちが手をあげてくださいました。平日の午後に講習会をしたときも5、6人のお父さんが休暇をとって参加しました。自分の子どもが通っている学校の教壇に立ち、子どもの友達のお父さんに教えることが面白い！ということ、皆さん、嬉しそうにやっています。仕事では得られない喜びで、その気持ちがすごくよく分かりました。

企業と地域活動では組織や意思決定のプロセスが違う

子どものいる男性は、学校を通しての地域活動が一番始めやすいですね。地域活動はきっかけが難しいですが、学校は地元ですし、子どもが通っているとなれば親しみもありますし違和感がありません。地域に関わるきっかけと方法を知らないだけで、誰かが場ときっかけを用意すれば、父親も出てくれるでしょう。場があることときっかけが大事ということです。

企業とPTAのような地域団体では、行動の原理が違います。企業はヒエラルキーの組織です

が、地域は学校でもNPOでもフラットな組織です。

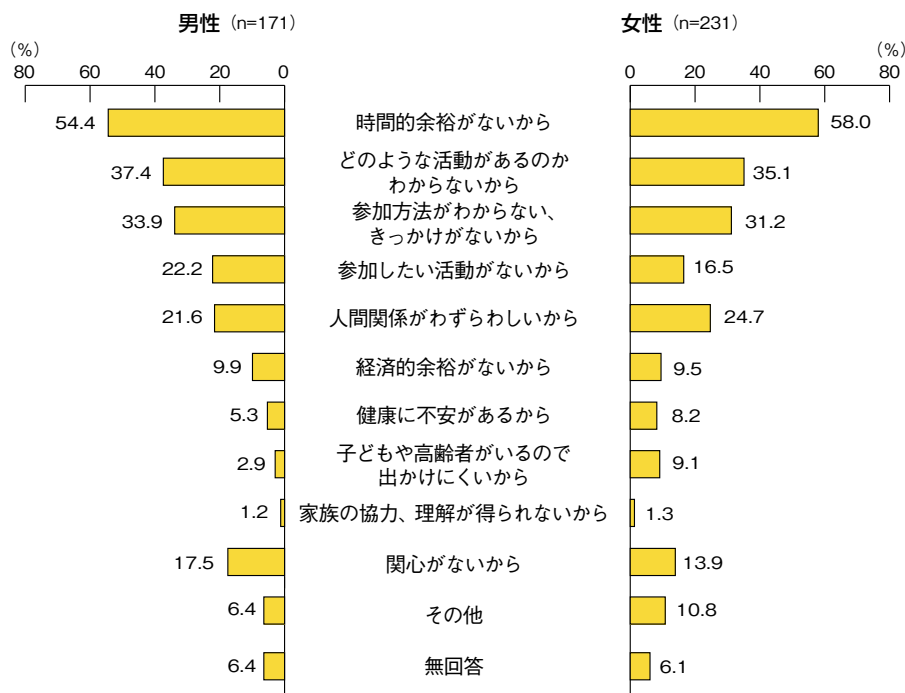
私自身、PTAの活動でそれを感じたことがあります。会長になり、役員の皆さんが資料を保管できるようにと人数分のファイルを買ったところ、目的が何であれ、会長が独断で決めてはいけないと言われました。企業は役職の権限で決めることができますが、地域の組織は会長職でも勝手に決めて執行することは許されません。情報を開示して皆さんの合意をとって決める合議制なのです。

私はなるほどなと思いました。ヒエラルキーの組織とフラットな組織では意思決定のプロセスや行動の原理がまったく違うのです。それを知っておかないと、定年になっていきなり自治会やNPOで働こうとしても長続きしません。例えば会社で役員をやっていた人がNPOに入って人に指示ばかりしてしまうことはよくあることです。

定年を迎えてから地域活動をスムーズに始めるには、企業で働いているときから、二つの組織の違いを経験しておくことです。そういう意味で子どもが学校に通っているときにPTA活動や自治会の

図表2 地域活動に参加していない理由〈地域活動に現在参加していない人〉
(性別：複数回答)

地域活動に参加していない人にその理由を聞いたところ、「時間的余裕がないから」に続いて、「どのような活動があるのかわからないから」、「参加方法がわからない、きっかけがないから」が上位にあがっています。



資料：「中央区男女共同参画に関するアンケート調査報告書」平成25年3月

ると思います。自分は社会的にどういう存在なのか、働いているときは仕事を通じてそういうものを感じています。1枚の名刺が、自分の社会的なポジションを語り、仕事を通じて社会に貢献しているという自己肯定感があります。

リタイアして名刺を失うことは、自分のアイデンティティがなくなることで、30歳代をピークに年代が上がるに従って仕事で忙しくなり幸福度が下がり、年齢と幸福度には関係があり、それが名刺に替わる新たなアイデンティティになり、生きがいや自己肯定感につながります。

仕事以外の軸足をもつ

「今日用」と「今日行」ところをつくるには、リタイアするまでに軸足を何本かもつことです。軸足が仕事だけでその軸足がなくなるときに立っていられます。会社と家庭、地域など複数の軸足をもつことになりませんが、均等に力をかける必要はありません。現役で働いている間は「仕事に8、家庭に1、地域に1」、子

下がります。日本もアメリカも同じように下がるのですが、アメリカは60歳代を底に、リタイアする70、80歳代でまた幸福度が上がります。リタイアするということは、食べるために働くことから解放されるわけですから幸せになるはずですが、ところが、日本はリタイアするとさらに幸福度が下がります。それは仕事をなくすことによつて自分のアイデンティティが失われるからです。

子どもに手がかかるときは「家庭に4、仕事に4、地域に2」など、自分のライフステージにあわせて軸足の力のかけ方を変えていくことが大切です。そういう柔軟な生き方をすればよいのではないのでしょうか。

地域活動を始めるきっかけがわからなければ、いろいろなところに顔を出してみることで、自治会の活動はどこにでもあります。自治会、そういうところに出てみると、それなりの役割が与えられます。マンシヨンの管理組合の役員も、始めるときはしぶしぶ引き受けますが、1年経つと皆さん面白かったと言います。マンシヨンの住人に知り合いが増えるなど得るものも多いはず。管理組合もマンシヨンの中だけでなく、防災などでは近隣の自治会や消防署への連絡など、外に広がっていきます。地域のつながりをもつきっかけとしては最も身近でいいと思います。

地域のために、自分のために

地元で顔見知りが増えることはうれしいこと。大人の知り合いもそうですが、PTA活動をした

ときに中学生だった子どもたちが大人になり、たまに会うと「こんにちは」と言ってくれます。自分

が住んでいるところに居場所があるという感じがします。それは素晴らしいことです。

地域活動に男性の参加が求められていることは言うまでもありません。地域のためにも、自分のた

めにも、地域に出番と居場所をもち、いつまでも豊かな人生を過ごしてほしいと思います。

人とのつながりを得た

のりたけたかまさ
則武孝政さん

「2013年子どもための環境まつり」実行委員長、
中央区環境保全ネットワーク運営委員

中央区環境保全ネットワークの運営委員をしています。亡くなった母が役員をしていた関係で、環境まつりの準備や設営など力仕事を手伝っていました。工務店を経営していますので、廃棄物のことなど以前から環境問題に関心がありました。年々、会議にも顔を出すようになり、今年は「子どもための環境まつり」の実行委員長になりました。10回目を迎える記念のイベントで、企業や団体、小学校など30を超える出展があります。

中央区環境保全ネットワークの男性の会員は1割程度です。普段の活動の頻度は運営委員会が月に1回程度あるほかは、メールでやりとりしています。仕事とはまったく違うコミュニケーションも勉強になります。

環境活動以外にも地元のお祭りや自治会の防災活動などを行っています。人とのつながりが楽しいですね。普通に生活していても出会う人の数は限られていますが、いろいろなところに出ていけばいろいろな人と知り合いにできます。



中央区には新しい住民がどんどん増えています。まだ地域に関わりを持っていない方は、子どもやPTA活動を通して始めるのがいいですね。ひとつ始めると新しいつながりが広がっていくと思います。

区民インタビュー



ど、いきいきとお話をされるのを聞くのは楽しいですね。

傾聴ボランティアをきっかけに、区の福祉まつりやブーケ祭りに参加することでたくさんの方々と知り合いになりました。これも楽しいです。

これから何かを始めたいと思う方は、数多い情報の中から琴線に触れる情報をたぐりよせることです。面白そうだなと思うたら、まず飛び込んでみる。一歩踏み出して、その感触が自分にあっているかどうか確かめて、うまく踏み出せそうなら二歩目を行けばいいと思います。

中央区に転居して今年で11年です。新規民といえるかもしれませんが、人に接することが好きで始めた活動ですが、その結果、地域に結びついたという感じです。

琴線に触れる情報をたぐりよせる

みのわ まこと
箕輪 慎さん

「中央区健康福祉まつり2013」実行委員長、
傾聴ボランティアグループ「ささぎ」の会長